

常照

第804号

死にたいなんて…

「みなさんの周りの方で死にたいって言うてる人いませんか？あれはね、死にたいなんて言ってますけど本当のことをいうとね、もつとかまってほしい、大事にしてほしいということの裏返しなんですよ。だからね、話を聞いてあげてください、大事にしてあげてください。人間はみんな大事にされたら死にたくなくなるんですよ」こんなお説教を聞かせてもらったことがあります。なるほどなあと、当たってるかもなあと、そんな気もしますが、みなさんい

がでしよう？ところが、周りから大事にされなくて死にたいと言っているこの人が、死ぬということを意識したとき…死にたいなんて口に出せるでしょうか？

例えば病院にかかります。調子が悪いから検査を受けて結果を聞くまでの一週間。早く結果を知りたい、無事であってほしい。こんな時に死にたいなんて思う人はいませんか。そうして一週間後。「私の体はどこが悪いんでしょう！遠慮なく仰ってください」と詰問します。お医者さんが「そこまで言うならばつきり言いますが…あと三ヶ月ですね、余命」なんて宣告されたらどうでしょう。死にたいなんて言えなくなりそうです。何を食べてもおいしくありません。食欲もなくなりますし、どんな楽しい話題にも興味がなくなります。夜も不安で眠れなくなります…これは作り話ではありません。実際お

聞きした言葉です。その方は死を意識すると日常はいつべんにも変わるんだよと教えてくださいました。

幸いにして今のところ私は毎日よく眠れますし、食事もおいしく頂戴しております。死を意識せずに過ごしているんだなと思います。これを幸せと呼ぶのかどうかは定かではありませんが、死にたいと口から出ることは今はありません。口では生かされていると言いつつ、何も意識せずに生きています。何かもしれません。しかしいずれは何か食べたくない、不安で眠れないという日がやってくるのだと想像します。死は終わりでしょうか？

前世と現世と後世

あらゆる生き物は死んでも死んでも別のかたちに生まれ変わりを続けるといふ輪廻の思想が仏教の考え方であり

ます。生まれ変わった先にもやはり寿命があり、その寿命がくればまた別のところへ生まれ変わっていく、このサイクルが無限に続くというのが輪廻です。そして生まれ変わる先も六道といって、地獄・餓鬼・畜生・修羅・人・天を行ったり来たりです。お釈迦さまはご自身の入滅（亡くなる）に際して「死ぬ」という言葉を用いられませんでした。代わりに涅槃に入るとお説きくださいました。生まれ変わりの死に変わりの六道を超越した境地です。迷いの世界に生まれ変わることも苦しみの一部であり、この苦しみから逃れるにはこの輪廻から解脱していかなければならない。そのために悟りをひらき仏陀（覚者）になることで迷いの世界を離れ、安らかな境地に生まれていくことができたのです。

無生の生（むしょうのしょう）

涅槃に入るといふこと。このことを七高僧の一人の曇鸞大師は「無生の生」といふ言葉で著されました。それは人間が考えるような生ではなく、生まれたり死んだり、生じたり滅したりを超えた「生」です。迷いの世界に戻らないといふことです。

迷いの存在である私が迷いを離れ悟りの存在である仏にならせていただく。仏教とは、成仏道であると言えます。禅宗も真言宗でも日蓮宗でもそれは同じであります。どのようにして悟りを目指すか、それが各宗旨、宗派の特色であり違いであります。

浄土真宗では根本の聖典を仏説無量寿經と仰ぎ、悟りをひらくとか仏になるといふことを「浄土に生まれる」「往生する」といった言い方で表現します。親鸞聖人は、迷いの存在である私が仏

にならせていただくといふことの不思議さを、氷と水の存在に喩えられました。氷は個体であり、水は液体であります。氷と水は違うものであると同時に同じものであります。

【煩惱の氷解けて功德の水と成る】

この表現は凡夫が凡夫のまま、煩惱が煩惱のまま、浄土へ生まれるといふことを表現しています。別人に生まれ変わるのではなく、私のままであります。ただし氷を水に変えていく力は私達にはありません。それを変えていくはたらしが阿弥陀さまの智慧と慈悲であると表現されています。このはたらしに出会うことで、悩み苦しみから逃れようとする人生がお念仏とともに、悩み苦しみとともに力強く、慶びの多い、味わい深い人生に、転化されていくのです。

南無阿弥陀仏

合掌

令和三年 年回表

一周忌	令和二年	寂
三回忌	令和元年	寂
七回忌	平成三十一年	寂
十三回忌	平成二十七年	寂
十七回忌	平成二十一年	寂
二十三回忌	平成十七年	寂
二十五回忌	平成十一年	寂
二十七回忌	平成九年	寂
三十三回忌	平成七年	寂
三十七回忌	平成元年	寂
五十回忌	昭和六十四年	寂
	昭和六十年	寂
	昭和四十七年	寂

※詳しくはお寺にお尋ねください。

一月の

常例布教(ご法話)のご案内

○前期 一月九日(土)～十一日(月)

休 座

○後期 一月十三日(水)～十六日(土)

北海道教区留萌組 善勝寺

講師 吉川 秀 洋 師

○場 所 小樽別院内

○時 間 午後二時(法要終了後)～

午後三時半

浄土真宗のみ教えについて布教使にご法話をして頂きます。どうぞお誘い合わせいただき、ご聴聞に来院ください。席の間隔を保ち、換気実施の上、お待ちしております。

発行所

☎047-0017

小樽市若松一丁目四番十七号
本願寺小樽別院

電話 (011) 471-0744
FAX (011) 471-0848
テレホン法話 二七一一六番